

第1章 いけばな前史..... 7

- 01 神の依代—いけばなの源流① 8
- 02 仏に供える花—いけばなの源流② 10
- 03 観賞する花—いけばなの源流③ 12
- 04 大仏開眼と造花 14
- 05 密教の花 16
- 06 平安文学に見える花 18
- 07 平安貴族の花合 20
- 08 絵巻に描かれた供花 22
- 09 鎌倉時代の板碑と禅宗寺院 24
- 第1章余話 聖徳太子といけばな 26

第2章 室町時代..... 33

- 10 「立てる」と「生ける」 34
- 11 唐物と花合 36
- 12 七夕法楽の花 38
- 13 中国風の花 40
- 14 三具足の定着 42
- 15 同朋衆の立て花 44
- 16 池坊専慶の登場 46
- 17 専慶の花と伝承 48

- 18 宮中の立て花と大沢久守 50
- 19 名手たちの交流 52
- 20 『花王以来の花伝書』 54
- 21 『池坊専応口伝』① 56
- 22 『池坊専応口伝』② 58
- 23 天文花伝書の世界 60
- 24 青蓮院をめぐる文化サロン 62
- 25 謎の花伝書『仙伝抄』 64
- 26 連歌と花 66

第2章余話 川端康成と『池坊専応口伝』 68

第3章 安土桃山時代..... 75

- 27 立花と砂物 76
- 28 池坊専栄の地方巡回① 78
- 29 池坊専栄の地方巡回② 80
- 30 生け花と茶の湯 82
- 31 戦国武将の教養 84
- 32 豊臣秀吉を迎える花 86
- 33 能・狂言と立花 88
- 34 都市文化としてのいけばな 90
- 35 百瓶花会の盛況 92
- 36 花の家としての池坊 94

第3章余話 障壁画といけばな 96

第4章 江戸時代前期103

- 37 二人の池坊専好と曼殊院 104
- 38 後水尾天皇の宮中立花会 106
- 39 徳川將軍の御成と立花 108
- 40 後水尾上皇の仙洞立花会 110
- 41 立花の大成 112
- 42 京都の立花興行 114
- 43 池坊を支える門弟 116
- 44 六角堂の七夕立花会 118
- 45 立花図集の成立 120
- 46 抛入花の流行 122
- 47 華道書の刊行 124
- 48 大住院以信と富春軒仙溪 126
- 49 琉球に伝わったいけばな 128
- 50 花材の供給 130
- 51 東大寺大仏の復興 132
- 52 浮世草子・浄瑠璃と立花 134

第4章余話 いけばなの道具と技法 136

第5章 江戸時代中期・後期143

- 53 家元組織の充実 144
- 54 地方への普及と交通路 146
- 55 將軍への立花上覧 148
- 56 『瓶史』と文人花 150

- 57 生花様式と新興流派 152
- 58 千葉龍トと源氏流 154
- 59 池坊の生花 156
- 60 生花流派の発展 158
- 61 花会と生花の流行 160
- 62 女性といけばな 162
- 63 大名家の花 164
- 64 天皇家中陰・即位の花 166
- 65 京都の寺院を彩るいけばな 168
- 66 未生流と三才 170
- 67 池坊専定と『挿花百規』 172
- 68 東日本の池坊 174
- 69 西日本の池坊 176
- 70 シーボルトの日本研究 178
- 第5章余話 家元の余技と旅 180

第6章 明治時代から現代185

- 71 明治維新といけばなの危機 186
- 72 外国人が見たいけばな 188
- 73 コンドルのいけばな研究 190
- 74 博覧会のいけばな展示 192
- 75 女学校のいけばな教育 194
- 76 池坊の近代化 196
- 77 和洋折衷のいけばな理論 198
- 78 小原流と盛花 200

79	盛花における伝統と革新	202
80	広山流と安達式	204
81	教授方法とマスメディア	206
82	西川一草亭の文人花	208
83	近代的な花展	210
84	山根翠堂の自由花	212
85	重森三玲と新興いけばな宣言	214
86	戦時のいけばな	216
87	戦後復興と三大流派	218
88	勅使河原蒼風と草月流	220
89	花展の盛行	222
90	前衛いけばな	224
91	国際化と統括団体	226
92	池坊専永と新風体	228

あとがき 230

付録	関連年表	232
	索引	241

ブックデザイン 濱崎実幸

第1章 いけばな前史